

吾妻山

火山活動度レベル 1 [静穏な火山活動]

概況

火山性地震の回数は、9月も引き続き増加傾向にありますが、噴煙活動、熱活動、地殻変動に変化はなく、静穏に経過しました。

・噴煙活動（図2）

遠望観測（監視カメラ：大穴火口の東北東約14km）では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは30m以下で低調な状態が続いています。

・地震活動（図3）

火山性地震は、207回（8月57回）と7月頃から増加傾向にありますが、活動がやや活発だった、前回（2004年1月）前々回（2001年12月）と比較すると少ない状況です。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動（図4～5）

山体周辺で行っているGPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は観測されませんでした。

・熱活動（図6～8）

9月20日に行った現地観測の結果では、大穴火口付近の噴気地熱地帯の状況に変化はなく、静穏な状態でした。

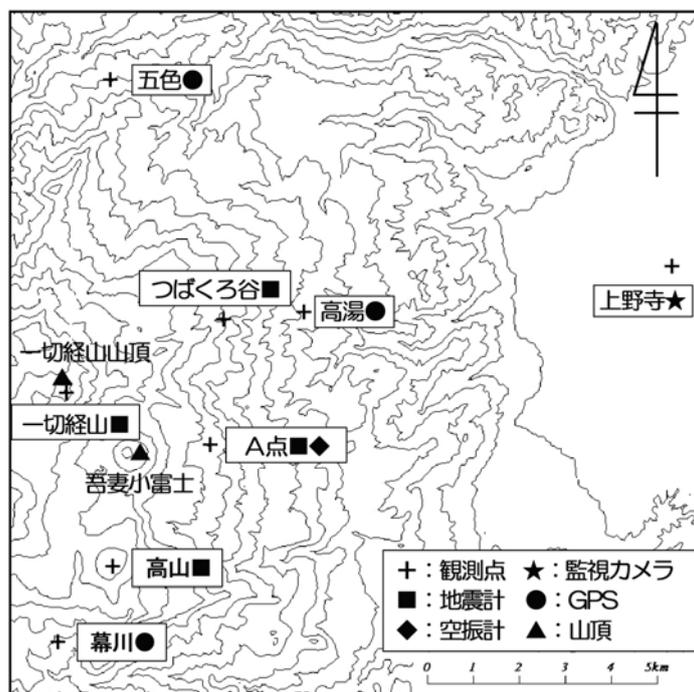


図1 吾妻山 観測点配置図

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用したものである。（承認番号 平17総使、第503号）

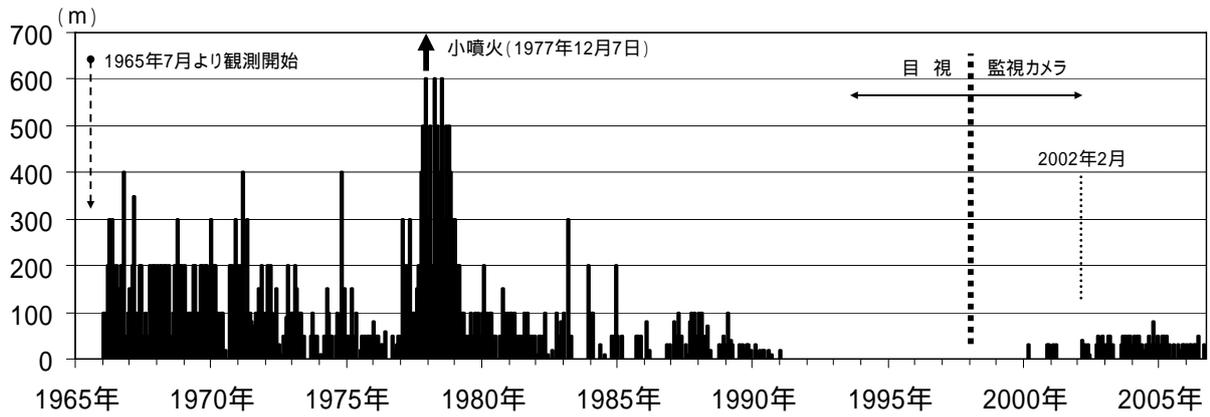


図2 吾妻山 月別最大噴気(噴煙)高(1965年7月~2006年9月)

1998年以前は福島地方気象台(大穴火口の東北東約20km)から目視観測
 1998年から監視カメラ(大穴火口の東北東約14km)による観測
 2002年2月以前は定時(09時,15時)及び随時観測による高さ。
 2002年2月以後は全ての時間を収録データから観測した高さ。

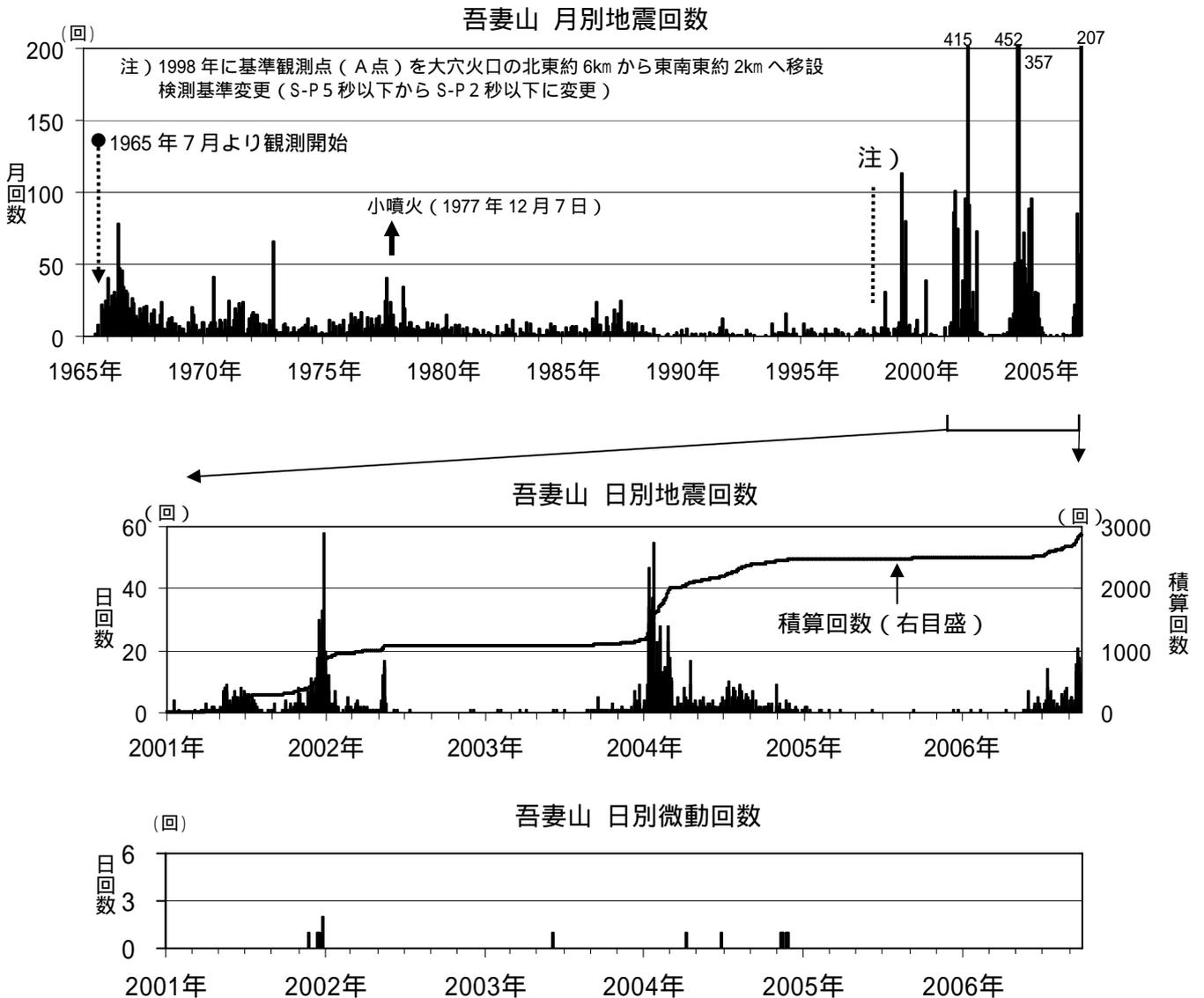


図3 吾妻山の地震回数および微動回数

月別地震回数(1965年7月~2006年9月)
 日別地震回数(2001年1月~2006年9月)
 日別微動回数(2001年1月~2006年9月)

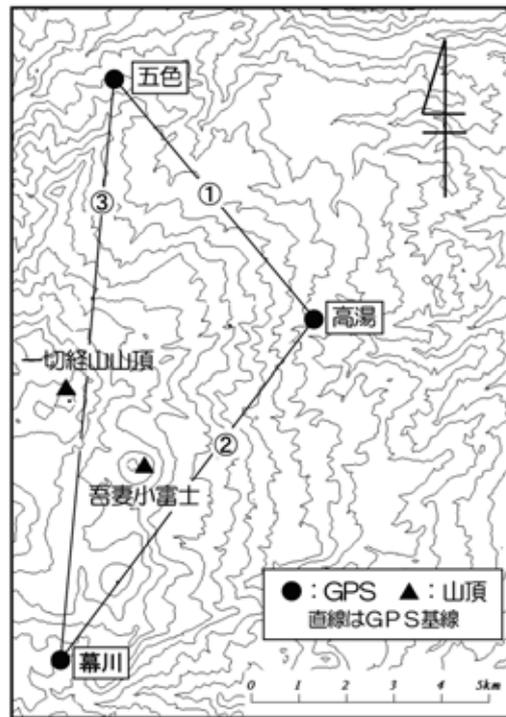


図4 吾妻山 GPS 観測点配置図

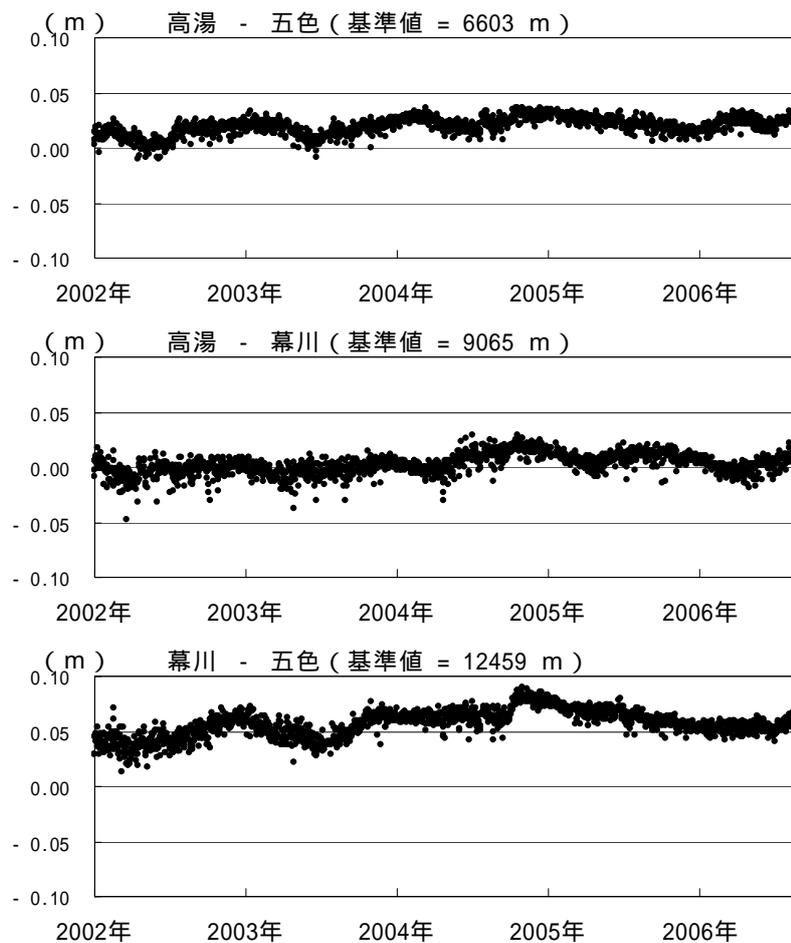


図5 吾妻山 GPS 基線長変化図(2002年1月~2006年9月)

現地観測の結果

9月20日に、現地観測を実施しました。赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布、及びサーミスタ温度計²⁾による噴気温度、地中温度の観測結果では、前回(2005年10月)と比べ大きな変化はなく、また、目視による大穴火口噴気地熱地帯の観測でも、異常は確認されず、静穏な状態でした。

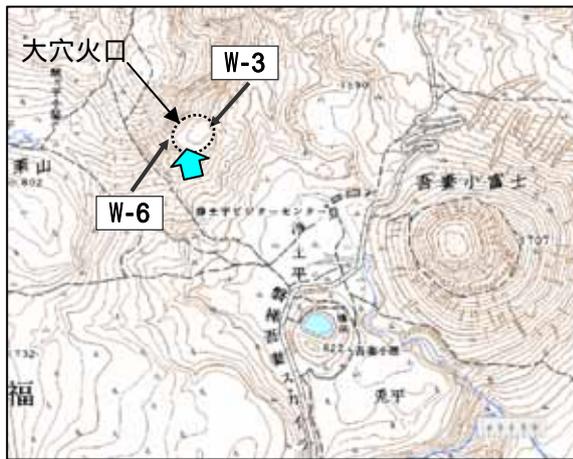


図6 赤外熱映像観測地点図
 ↑:映像観測点



図7 八幡焼(W-3b)の噴気温度(深さ20cm)変化図
 (1971年8月~2006年9月)

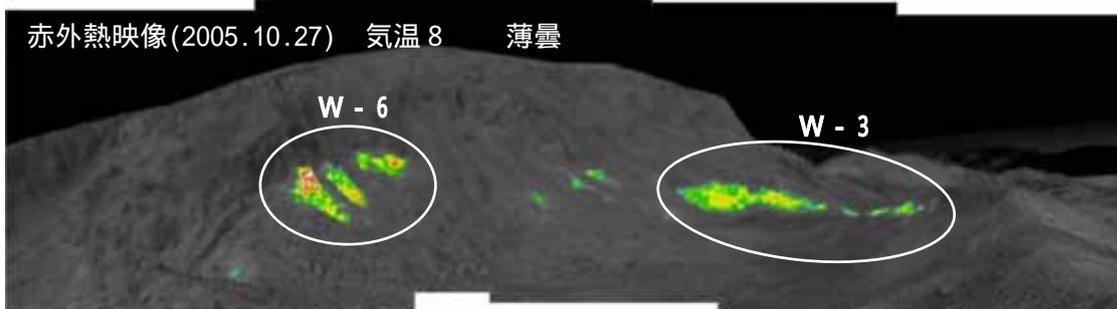
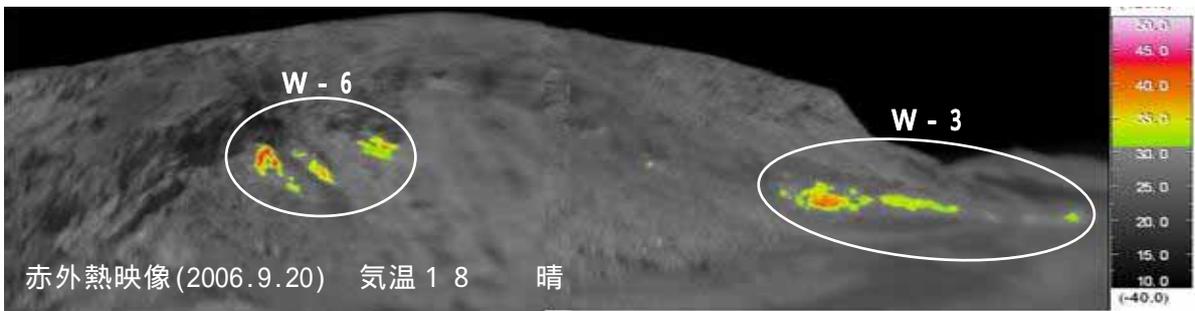


図8 映像観測点4からの可視画像(上)と赤外熱映像画像¹⁾(中、下)

注) 赤外熱映像画像で色のついている領域は、周囲に比べて温度の高い領域(地熱地帯)を示している。
 なお、赤外熱映像では日射の影響で、観測点(W-3、W-6)以外でも温度が高くなっている所がある。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
- 2) サーミスタ温度計は、センサーを直接熱源に当てて温度を測定する機器である。